キャッチフレーズ「学校大好き！　輝くひとみいっぱい　栗原小学校」

栗原小だより

～学校教育目標～
よく考え学ぶ子
心のゆたかな子
たくましい子

新座市栗原１－５－１　☎042-473-7070
ＨＰ　https://e-kurihara-c-niiza.edumap.jp/

令和６年度７月号
令和６年６月２８日

「なぜ働いていると本が読めなくなるのか」

校長　古澤　健史

【６年生修学旅行】

６月１３日（木）・１４日（金）に、本校の６年生が日光に修学旅行に行って参りました。６月の日光とはいえ、季節はすっかり夏でした。新座よりはずっと涼しかったですが、天候の急変はまさに夕立でした。雷雨のためにハイキングこそ実施できませんでしたが、急な日程変更にもしっかりと行動でき、バスの運転手やガイドさん、宿の方、見学先の方、すれ違う観光客にも気持ちの良い挨拶をしていました。報道等にもあったように今年は雪が少なかったため、中禅寺湖の水位は低く、華厳の滝の水量は通常時の２０分の１とのことでした。

また、先を見越して行動し、楽しい時間がたくさん作れるように、自分たちで考えて行動していました。２日目の東照宮は、大混雑にもかかわらず、素早く準備して行動できたため、団体客では１番に入場でき、じっくりと見学することができました。多くの成功体験を経て、これからの６年生の成長が楽しみです。

【ためにならない読書はない？】

私は最近、三宅香帆さんの『なぜ働いていると本が読めなくなるのか』という本を読みました。最近、忙しさを理由に読書量が減っていると感じて、そんな自分への反省からこの本のタイトルに興味を持ち読んでみました。この本の作者の三宅さんは、好きな本を読む時間がないことを理由にお仕事を辞めてしまったという極端な経歴の方です。明治以降の日本の読書の歴史を分析し、人々の読書の目的や傾向の変化に触れながら、働くことと本を読むことの関係について論じています。そして、読書は何が向こうからやってくるのか分からない、知らないものを取り入れる、自分では内容をコントロールできない娯楽で、労働を邪魔する雑音（ノイズ）になるとしています。スマートフォンで電子版のニュースを読んでいると必要な情報だけが効率よく入ってきます。一方紙の新聞では、一見必要でない他の情報も同時に入ってきてしまう。結果、多様な情報に触れることができます。上手に効率よく情報を得ることも大事ですが、意図的に多様な情報に触れられるようにすることも必要なのだと思います。

さて、修学旅行を終えた６年生は国語で「ぼくのブック・ウーマン」という教材を学習していました。このお話は、今から１００年くらい前のアメリカが舞台になっています。学校も図書館もない不便な所で生活をしている子どもたちのために、図書館の本を馬に乗って届けていた「荷馬図書館員」の物語です。馬に乗った図書館員が、１軒ずつ本を貸し出すために遠くつらい道のりを物ともせずに訪問する姿を見たカル少年の本に対する気持ちだけでなく、心も大きく成長させていくそんなお話です。

６年生がこの教材を学習しているのを見て、何か為になる本はないか、お仕事でつかえる本はないかとばかり考えて、読む本を探していた自分から少し離れて、ワクワクドキドキするような剣と魔法の冒険のお話や、名探偵が颯爽と登場するお話、歴史の英雄が活躍するお話、お化けや妖怪が出て来る怖いお話を改めて楽しんでみようと思いました。暑すぎる夏、涼しい図書館や部屋で本を読みませんか。